

熱・水・環境のベストパートナー

MIURA

熱・水・環境のベストパートナー

MIURA

編集方針

本報告書はミウラグループのCSR（企業の社会的責任）を果たすための基本的な考え方、取り組みに関する2016年度の実績と、今後の計画を報告するものです。
CSR活動で特に重要と考えている環境、品質とCS（顧客満足度）、人材育成や社会貢献といったキーワードを中心に、各ステークホルダー（ミウラグループと関わるさまざまな利害関係者）からの関心が高いと思われることや、ミウラグループがとくに注力していることを優先的に報告しています。

対象範囲

国内グループ会社および海外グループ会社については、一部含まれない会社もあります。

報告対象期間

2016年4月1日～2017年3月31日
但し、本文の記述のなかには一部過去と、直近の情報も含まれています。

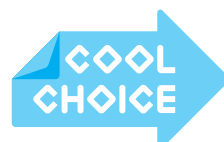
ウェブサイトでの情報開示

ミウラグループのCSR・環境情報は、ウェブサイトでもご覧いただけます。
<http://www.miuraz.co.jp/>



ミウラグループCSR報告書 2017

三浦工業株式会社



未来の
ために、
いま選ぼう。



ミウラグループの概要

会社概要

- 社名：三浦工業株式会社
- 事業内容：小型貫流ボイラ・船用補助ボイラ・排ガス（廃熱）ボイラ・水処理装置・食品機器・滅菌器・薬品等の製造販売・メンテナンス・環境計量証明業等
- 所在地：愛媛県松山市堀江町7番地 〒799-2696
- 代表者：代表取締役 社長執行役員 CEO 宮内大介
- 創立：1927(昭和2)年12月1日
- 設立：1959(昭和34)年5月1日
- 資本金：95億4,400万円
- 発行済株式総数：12,529万株(東証一部)
- 証券コード：6005
- 連結売上高：1,025億49百万円(2016年度)
- 従業員数：連結4,950名(2017年3月31日現在)
グループ約5,013名(うち海外約1,393名)
(正社員・準社員のみ)

グループ会社

- 国内
- 三浦マシン株式会社
 - 三浦工機株式会社
 - 株式会社三浦マニファクチャリング
 - 三浦アクアテック株式会社
 - 三浦環境マネジメント株式会社
 - 株式会社ミウラ・エス・エー
 - ミウラジョブパートナー株式会社
 - 株式会社丹波工業所
 - アイム株式会社
- 海外
- 韓国ミウラ工業株式会社
 - 三浦工業(中国)有限公司
 - 三浦鍋炉(股)有限公司
 - ミウラサウスイーストアジアホールディングス社
 - ミウラシンガポール社
 - ミウラインドネシア株式会社
 - 三浦工業(タイ)株式会社
 - マルセ工販株式会社
 - 三浦トルコ熱システム工業有限公司
 - ミウラインターナショナルアメリカス株式会社
 - ミウラアメリカ株式会社
 - ミウラカナダ株式会社
 - ミウラボイラメキシコ株式会社
 - ミウラボイラブラジル有限会社
 - ミウラネザerland株式会社



三浦工業株式会社 本社

事業概要

ミウラグループは、ボイラで培ってきた「熱・水・環境」の技術を活かし、「電気・空気」まで含めた幅広い分野で事業を展開しています。省エネルギー・CO₂の排出量低減を実現する技術、熱エネルギー利用や水処理の技術を活かした船舶用の機器や、食品の加熱加工や冷却、また医療器具等の洗浄や滅菌、さらには環境関連技術を軸とした事業領域で、国内外のお客様の抱えられている問題を解決する製品とサービスをお届けしています。

CONTENTS

ミウラグループの概要	1
トップコミットメント	3
[特集1]バラスト水処理装置	5
[特集2]グローバル展開	7
[特集3]製品による環境貢献	9
[特集4]ミウラを支える人財1	11
ミウラを支える人財2	13

環境報告

環境マネジメント	15
環境教育と訓練	16
汚染防止の取り組み	17
自然との共生	17
省エネルギーの取り組み	18
省資源の取り組み	18

社会性報告

コーポレート・ガバナンス	19
コンプライアンス、リスクマネジメント	20
お客様への責任と行動	21
株主・投資家への責任と行動	23
取引先への責任と行動	24
地域社会への責任と行動	25
従業員への責任と行動	26
財務・非財務データ	27

第三者意見	29
第三者意見を受けて	29
読者アンケートの結果	30

アクア事業

メンテナンス事業

船用事業

軟水事業

環境事業

食機事業

国際事業

ボイラ事業

新事業・熱利用事業

メディカル事業

100年企業への飛躍を目指し “チーム・ミウラ”でチャレンジします



おかげさまで、私たちミウラグループは、まもなく創業60周年を迎えようとしています。創業時より現在に至るまで、独自の省エネルギー技術でさまざまな製品を世の中へ送り出し、エネルギー問題や環境問題の改善に努めてまいりました。

その間、ステークホルダーの皆さまに支えていただきながら、国内外で事業を展開し、「設計、製造から販売、メンテナンスまで一貫して行う」というビジネスモデルを強みに、成長してまいりました。

あらためて、皆さまからの温かいご支援・ご指導に、心より感謝申し上げます。

環境保全で世界に貢献する会社として

私たちは、ボイラで培ってきた省エネルギーの技術を活かした環境保全に取り組み、お客様に貢献することが重要なCSR活動であり、ミッションであると考えています。

ミッション遂行に向け、「現在、取り組まなければならないこと」を明確にした「中期経営計画」を掲げ、お客様貢献・社会貢献ができる3つの戦略を実行していきます。

まず一つ目は「ベストパートナー戦略」です。ボイラで培ったお客様との信頼関係を活かし、熱エネルギー、水処理、環境、電気、空気の分野においても、お客様のお役に立ち、ボイラ室だけでなく工場全体を「トータルソリューション」することで、省エネルギーやコスト低減を実現し、よりお客様に信頼される企業を目指します。

二つ目は「バラスト水処理装置の販売拡大」です。海洋環境を守るためのバラスト水管理条約の同年9月の発効に向けては、2018年度に100億円の売上を目指します。

三つ目は「グローバル展開」です。海外においては、まだ多くのボイラ市場が残されています。とくに中国の市場規模は日本の約4倍です。その中国ではPM2.5による環境悪化が問題となっており、原因の一つと言われるのが石炭焚きボイラです。三浦工業（中国）有限公司では、「中国の空をきれいな青空にしよう!」と、ガス焚きボイラへの入れ替えに取り組んでいます。

働きやすい職場づくり

私たちミウラグループは、「我々はわが社を最も働きがいのある、最も働きやすい職場にしよう」をモットーに、信頼・連帯感・誇りで結ばれる風通しの良い職場の実現を目指し、働きがいのある企業風土づくりや人財育成に取り組んでいます。働きやすい職場でこそ働きがいのある仕事ができ、それが社会貢献につながっていくという信念のもと、働きやすい環境は必要不可欠であると考えています。また、グローバル化に伴い、国籍や文化の異なる従業員数は、全体の約27%に至っており、それぞれの個性を活かせる職場づくりを積極的に進めることがこれからの発展につながると考えています。

さらに、ワーク・ライフ・バランスの推進、育児や介護などの事情を抱えた従業員が活躍できる働き方については、制度面の対応だけでなく、全社をあげて残業の削減を積極的に推進し、従業員の仕事への取り組み方や意識を見直しています。

100年企業を目指して

これまでの成長は、過去のミウラの先輩方が各時代において、今では想像もできないほどのチャレンジを重ねてきた結果であると実感しています。2017年度は、その姿を再認識するとともに、現在の“チーム・ミウラ”で100年企業を目指していきます。さらに飛躍する姿を思い描きながら、将来のためにチャレンジし続けたいと考えています。

これからも、「省エネルギーと環境保全でお役に立つために、世界一安くて良い熱・水・環境商品を世界のお客様に届ける“チーム・ミウラ”へ、皆さまの一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

三浦工業株式会社
代表取締役 社長執行役員 CEO

宮内大介

ミウラグループ企業行動規範

1. 法令等の遵守

- 国内外の法令を遵守することはもちろん、企業倫理に照らして誠実かつ公正に業務を遂行します。
- 国際的な事業活動においては、国や地域の文化・慣習を尊重します。

2. 安全性の重視

- 安全性を第一に考えたものづくりを行います。
- 健康で安心して働ける、最も働きがいのある職場づくりに努めます。

3. お客様の満足・信頼

- 社会的に有用で高品質の製品やサービスを創出し、お客様に満足をお届けしてまいります。
- 最高のテクノサービスを追求し、お客様から信頼される企業へと進化発展を遂げることを目指します。

4. 人権の尊重

- 従業員の人格、個性を尊重し、自由かつ公平な職場の実現に努めます。
- 人種、国籍、民族、宗教、信条、性別など、非合理的な理由により差別的な取り扱いはいけません。

5. 取引ルールの遵守

- 公正で自由な競争に基づく事業活動を行います。
- 取引先と良好な信頼関係を築き、ベストパートナーを目指します。

6. 環境問題に対する取り組み

- 環境への配慮を重視した製品・サービスを開発、提供し、地球環境保全に貢献する企業を目指します。
- 事業活動から生じる環境への影響を考え、環境負荷や環境リスクの低減に努めます。

7. 社会貢献・反社会的勢力との関係

- 「良き企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います。
- 反社会的な活動を行う団体や勢力とは、一切の関係をもちません。

8. 企業情報開示・情報管理

- 社会が必要とする企業情報を適正かつ適時に開示し、開かれた企業を目指します。
- 個人情報やその他の重要な秘密情報は、細心の注意をもって管理し、その保護に努めます。

世界の海洋環境保全に貢献するミウラの技術

2017年9月、バラスト水管理条約が発効されます。

ミウラは独自の技術で「バラスト水処理装置」を開発してきました。

生物類を確実に捕捉するフィルタと、UVによる処理方法は、バラスト水排出地の生物への影響を与えない環境にやさしいシステムです。

ミウラは、海の環境保全でもお役に立つため全力で挑戦しています。



ミウラのバラスト水処理装置

フィルタ

独自開発のフィルタは50μm以上の生物類を確実に捕捉。多段階洗浄機能により常にクリーンに保たれ、高い性能が維持できます。乗組員の手間もかかりません。

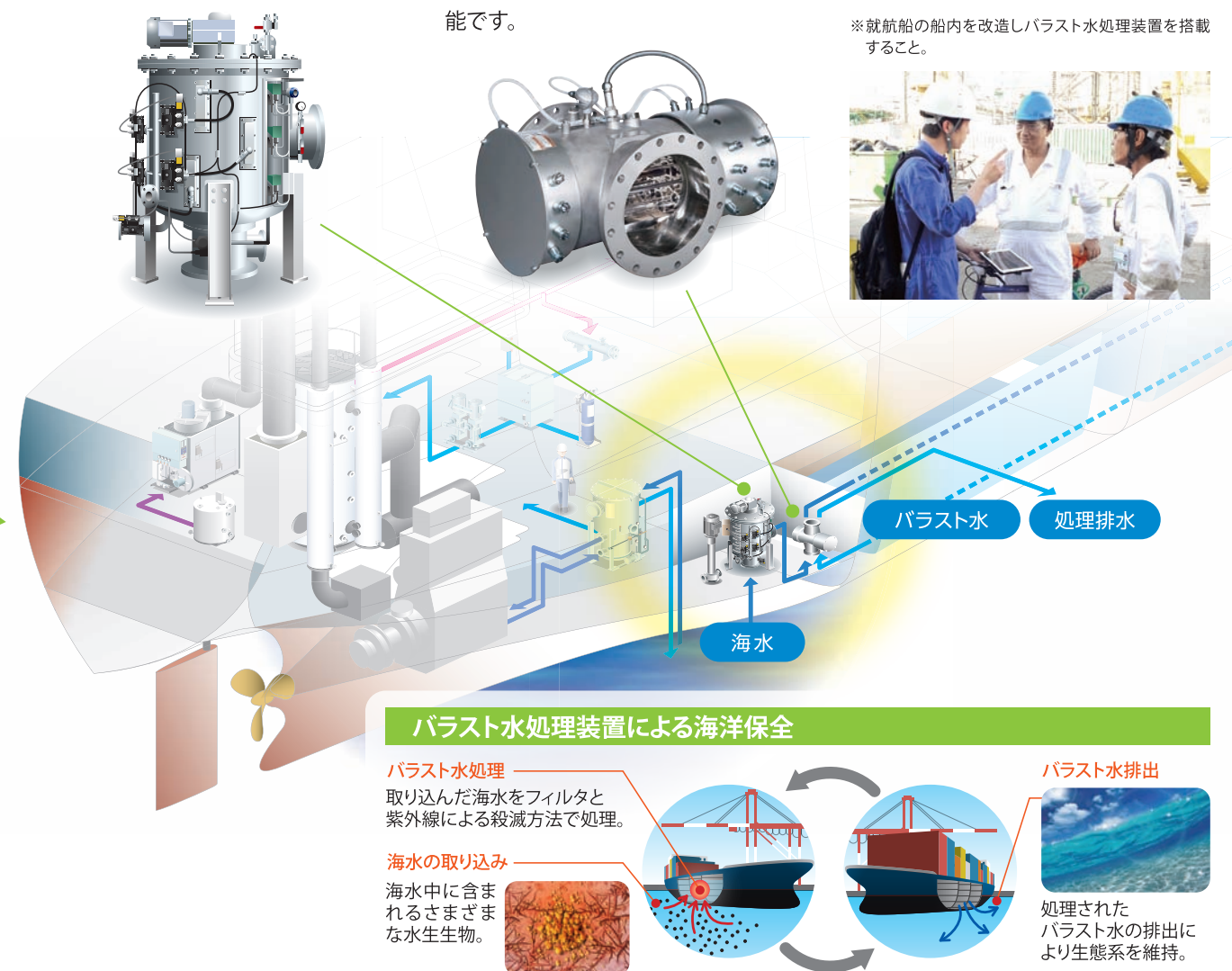
UVリアクタ

活性物質を使用せず、排出地の生物へ影響を与えないUVによる紫外線殺滅方法を採用。ミウラのUVリアクタは、水質に合わせ出力を制御するため、省電力化・長寿命化を実現することが可能です。

スーパーバイザー

レトロフィット*では、多様な事態が想定され細部にわたる経験が必要です。ミウラのスーパーバイザーは、船主・監督・ドックと連携して、より安全でフレキシブルに搭載工事を全面サポートします。

※就航船の船内を改造しバラスト水処理装置を搭載すること。



バラスト水処理装置による海洋保全

バラスト水処理

取り込んだ海水をフィルタと紫外線による殺滅方法で処理。

海水の取り込み

海水中に含まれるさまざまな水生生物。

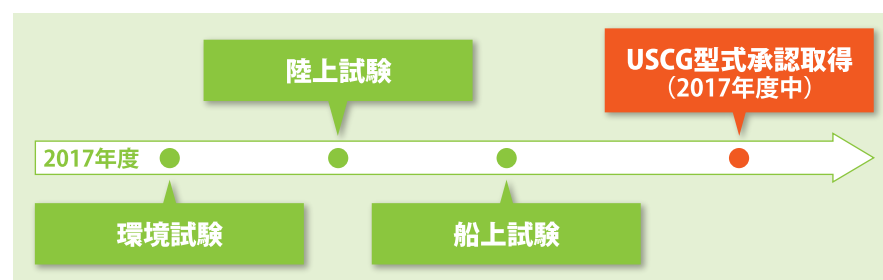
バラスト水排出

処理されたバラスト水の排出により生態系を維持。

USCG型式認証取得への取り組み

2014年にIMO（国際海事機関）のバラスト水管理条約に基づいた国土交通省承認とAMS容認※1を取得。現在は環境試験を終え、船上試験と陸上試験を行っています。

ミウラは2017年度のUSCG型式承認※2取得に向けて、USCGや認定試験機関（IL）の関係者とコミュニケーションを取りながら準備を進めています。



※1. AMS (Alternate Management System) : USCGが、IMO (International Maritime Organization) により承認されたバラスト水処理装置を一時的に認めた措置。

※2. USCG型式承認: USCG (United States Coast Guard, 米国沿岸警備隊) が定める独自のバラスト水処理規制に伴う、USCG独自のバラスト水処理装置承認。

VOICE

「海の生態系保全に貢献したい」人と海の関わりを大切にしてきた我が社と同じ

今治造船は、造船技術の開発改良を重ねながら、常に人と海の関わりの中で伝統を受け継ぎ、世界標準の建造テクノロジーで世界のお客様へ応えてきました。

2017年9月バラスト水管理条約が発効されますが、当社にとってバラスト水処理装置の選定は非常に重要で、国際条約を満足したものを選ぶ責任があります。機能性はもちろん、運行やオペレーションに与える影響が少なく、狭い船の機関室へ配置で

きるサイズであることなど、さまざまな条件を考慮する必要がありました。そして、独自のフィルタによる洗浄の仕組みと薬品を使わない処理システムである、ミウラのバラスト水処理装置HKを選定しました。

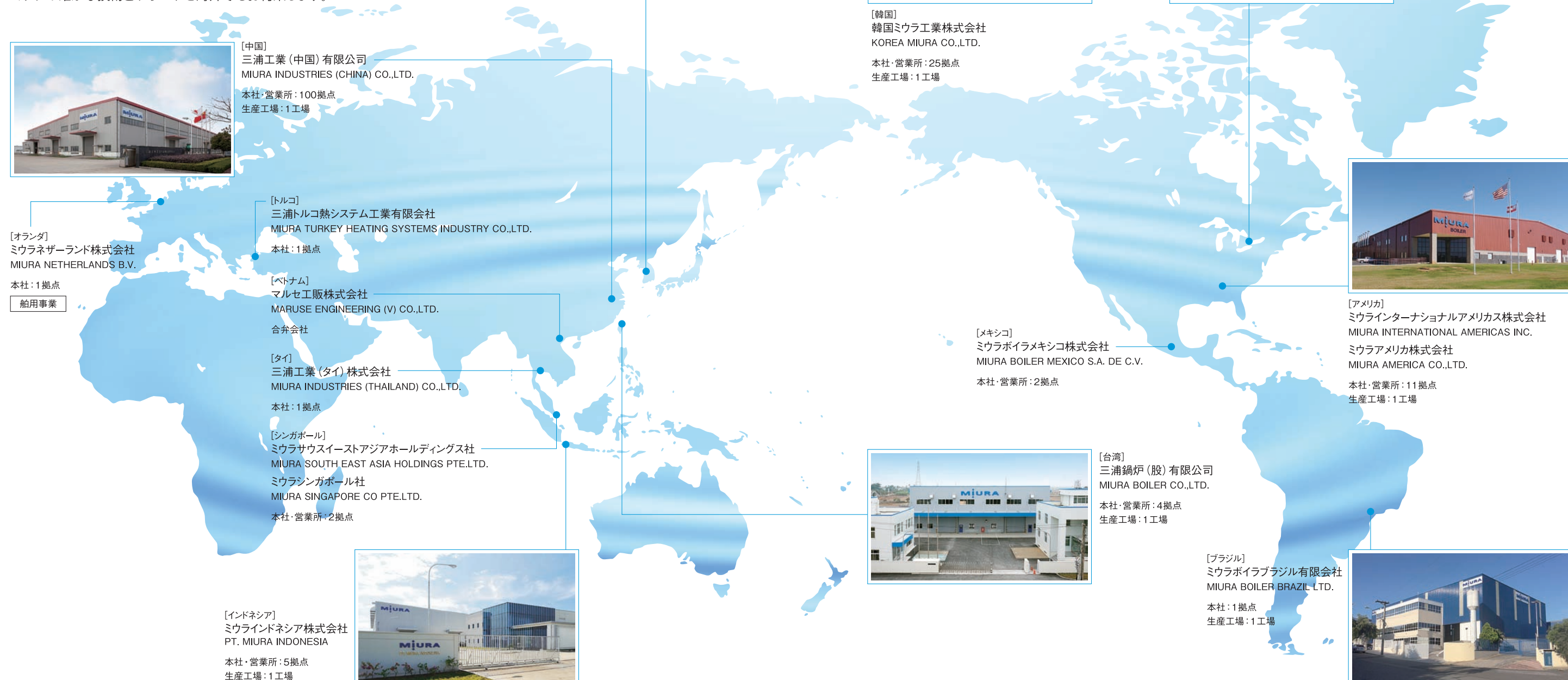
今後も船舶業界における環境規制は厳しくなっていくと思いますが、海洋環境保全に貢献できる船作りを目指していきたいと考えております。



今治造船株式会社 丸亀事業本部
基本設計グループ 計画第1チーム
主任 竹田 昇史 様

世界の空を青く美しく

地球環境保全への取り組みは世界的に拡大し、パリ協定は異例の早さで発効されました。
締結国は、温暖化対策に関する目標を設定し、達成の努力を求められます。
ミウラはこの環境保全のニーズに応え、CO₂排出量削減、低NO_x型の製品開発に取り組んでいます。
ミウラの確かな技術とサポートを海外でもお約束します。



アメリカ合衆国はNO_x規制の先進国

カリフォルニア州には空気が滞留しやすい地形が多いため、世界一厳しい窒素酸化物規制があり、30地区以上の大気質管理委員会が監督を行っています。ミウラの小型蒸気ボイラも、省エネルギーとともに排ガス中のNO_x9ppm以下（O₂=3.0%換算）の規制をクリアできるよう提案しています。



米国で活躍する低NO_x対応蒸気ボイラLX-300(4.5t/h)×3基

MIURA AMERICA CO.,LTD.

中国・北京市のNO_x環境規制に対応

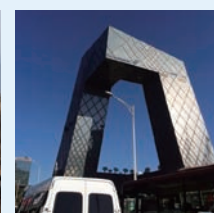
河北省周辺工場が排出する大量の煤煙、大気汚染PM2.5の根源であるNO_xの排出基準値が30mg/m³以下（O₂=3.5%換算）と厳しくなりました。北京の空がいつも青空であるために、ミウラは、石炭燃料から天然ガスの超低NO_xボイラへの転換を勧めています。

※東京都の規制値は60ppm（O₂=0%換算）、同じ基準で表すと北京の規制値は17.5ppm（O₂=0%換算）。

三浦工業（中国）有限公司 北京分公司



PM2.5で霞む万里の長城



青空がよみがえりつつある北京市内

インドネシア・東京ガスアジア社と相互協力締結

インドネシアでは、石炭燃料が大気汚染の一因となっています。ミウラは天然ガス焼き超高効率ボイラを普及する目的で、2017年1月19日に東京ガスアジア社と相互協力協定を締結しました。両社の技術・ノウハウの普及と拡大を通じて、インドネシアの環境負荷低減に貢献します。



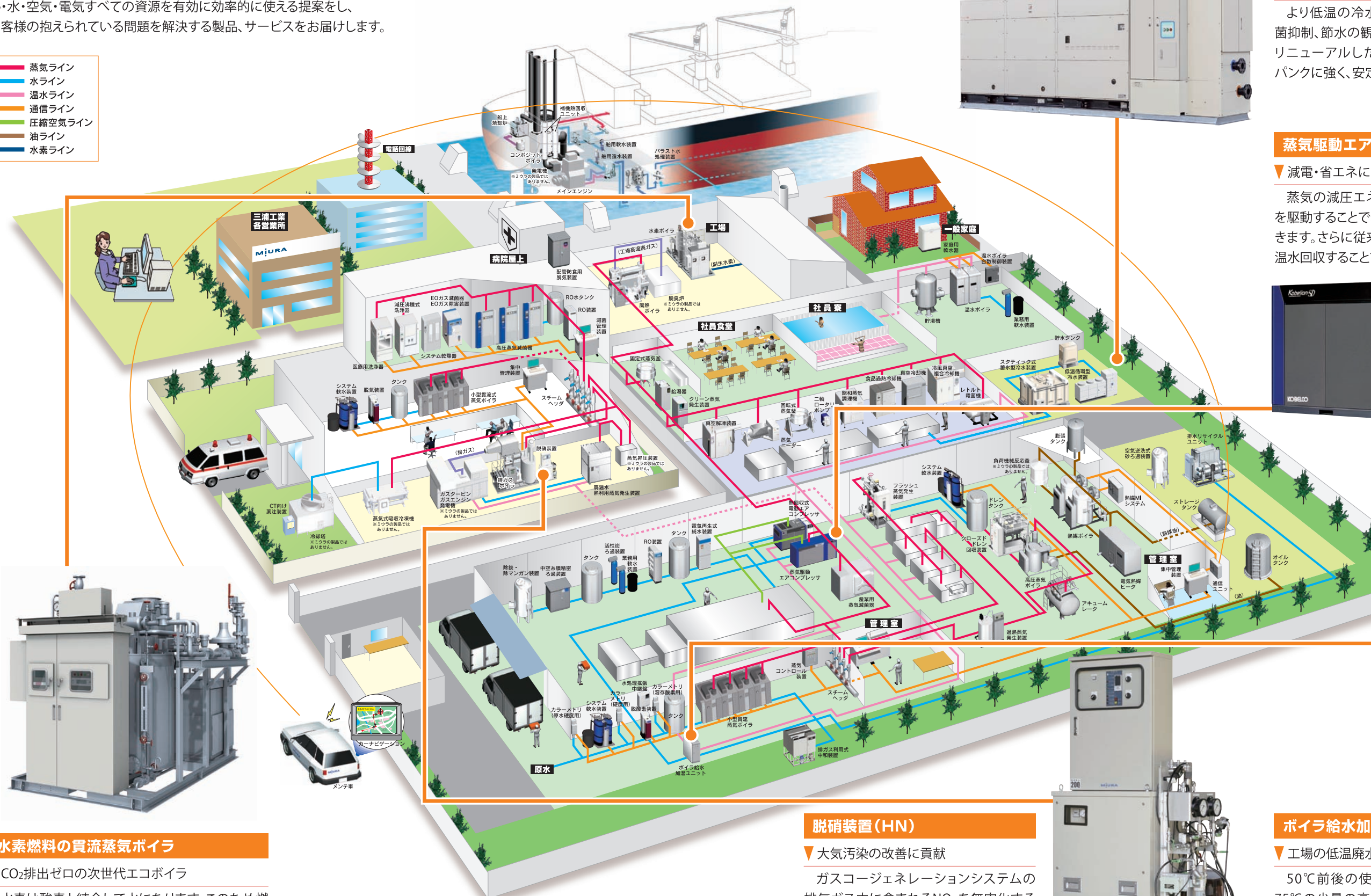
調印式にて

PT. MIURA INDONESIA

社会から信頼される環境に配慮した製品を創出

ミウラは「熱・水・環境のベストパートナー」として、環境にやさしい社会の創造と、より安全で豊かな暮らしに貢献するために、熱・水・空気・電気すべての資源を有効に効率的に使える提案をし、お客様の抱えられている問題を解決する製品、サービスをお届けします。

- 蒸気ライン
- 水ライン
- 温水ライン
- 通信ライン
- 圧縮空気ライン
- 油ライン
- 水素ライン



水素燃料の貫流蒸気ボイラ

▼ CO₂排出ゼロの次世代エコボイラ

水素は酸素と結合して水になります。このため燃焼時に排出されるCO₂はゼロになります。水素を積極的に利用することで、省エネルギーかつ環境にやさしい水素社会の実現に貢献しています。

脱硝装置 (HN)

▼ 大気汚染の改善に貢献

ガスコージェネレーションシステムの排気ガスに含まれるNOxを無害化する装置です。都市部を中心に、光化学スモッグや酸性雨等を防止し、環境保全に貢献しています。

ダムレイド (CR)

▼ 1℃冷水で食の安全に貢献

より低温の冷水は食品にとって鮮度維持、菌抑制、節水の観点から重要なポイントです。リニューアルしたダムレイドは汚れ・詰りやパンクに強く、安定して1℃冷水を供給します。

蒸気駆動エアコンプレッサ (SD)

▼ 減電・省エネに貢献

蒸気の減圧エネルギーでエアコンプレッサを駆動することで、既存電動機の電力を削減できます。さらに従来は捨てられていた圧縮熱を温水回収することで省エネルギーが可能です。

ボイラ給水加温ユニット (VH)

▼ 工場の低温廃水熱の有効活用

50℃前後の使いづらい低温廃水を、最高75℃の少量の高温水にする、ヒートポンプを活用したミウラ独自の熱回収システムです。燃料使用量を削減して省エネルギーを実現します。

ミウラグループの総合力を発揮する「人財」

ミウラグループは、技術力、営業・販売力、メンテナンス力の三位一体のビジネスモデルで、お客様の抱えている様々な問題・課題を解決できるサポート体制を整えています。さらに、お客様へ最適な製品やシステム・メンテナンスを提案できる基盤は「人財」と考え、働きがいのある企業風土づくりや人財育成に取り組んでいます。

技術力

ミウラは、製品を支える技術力を維持するため、さまざまな取り組みを行っています。

お客様のニーズを感じとる

技術者は、自らお客様の現場へ足を運び、自ら具体的ソリューション提案を行うとともに、進化したトータルソリューション提案ができる新たな商品の提案を行っています。

製造現場を知る

商品が使用される環境、商品が持つ個体差、商品の機能・性能に影響を与える要因を熟知し、商品品質の向上を図ることが技術者の使命です。製造現場の実態に精通した設計力を高め、コストパフォーマンス向上を図っています。

グローバル化に向けて

海外の環境規制に対応する開発・商品化を行うとともに、海外におけるメンテナンスサービスの向上のため、ミウラオンラインメンテナンスシステムの充実を図っています。

これからも技術革新を成し遂げるべく果敢なチャレンジを続け、真のチームワーク力でお客様に愛される商品開発を推進していきます。



技術力

安全・性能・品質の満足度の高い商品づくりへ全力を傾注

ボイラの設計に携わる技術者としてまず課せられるのは、「機器を使用されるお客様の安全」、「お客様の生産活動の一端をお預かりしている機器そのものの安全（保全）」の2つの安全を守ることであると考えています。一方、省エネルギー化や生産活動の高度化に伴うお客様の個々の使用目的・環境に合わせた、よりきめ細かな制御、高効率運転といった性能・品質面までのご要望の高まりもまた実感しています。ご要望の本質を理解することで、安全と性能・品質とを両立した技術・手法へ、いかに昇華し提案できるかが重要であり、やりがいのある部分であると感じています。

ボイラを取り巻く重要な社会テーマである環境問題に対しては、今だけでなく2050年や2100年といった将来に向け、微力ながら社会のために力を尽くし得る立場にあると思っています。「これがあって良かった」と言ってもらえるような技術を開発できるよう、努力を続けたいと思います。

ボイラ技術部
商品設計課
チーフエンジニア
伊東 航

小型貫流蒸気ボイラ
SQ



技術力

お客様に信頼された証を糧に排熱を有効活用できる技術を探求

排ガスボイラは、エンジンやタービンからの排熱を利用して蒸気や温水を生み出し、発電システムの総合エネルギー効率を高めることで、省エネやCO₂削減に貢献します。弊社の排ガスボイラは、熱源の種類やお客様からのご要求に応じて、最適な構造をその都度設計することで、高いエネルギー効率を実現しています。

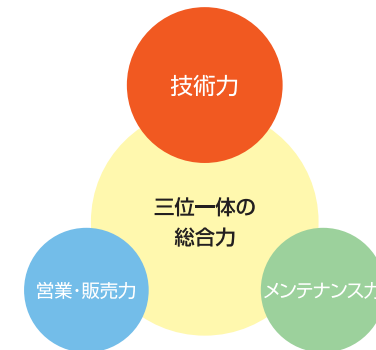
2011年3月の東日本大震災以降、停電時の電源確保や夏場の電力供給不足の懸念から、自家発電設備の導入増加を背景に、原動機の排熱を有効活用する排ガスボイラの需要も増加し、多忙な日々が続きました。しかしながら、このことは、今までの製品や私たちの頑張りがお客様に評価され、信頼された証でもあります。

これからも、お客様の声に耳を傾け、製品に反映させていくことで、「ミウラを選んで良かった。次もミウラで」とお客様に言ってもらえるように、努めていきたいと思えます。今後とも、ご愛顧の程、よろしくお願いいたします。

熱利用機器技術部
特機商品設計課
チーフエンジニア

林 伸彦

貫流式排ガス蒸気ボイラ
ECS-G



VOICE

「子どもたちの世代に
美しい地球を残したい」
資源循環100%社会の実現をめざす
キリンググループ



次世代に美しい地球を残すことはすべての人々の願いです。水や農産物など自然の恵みを利用する私たちにとっても、地球環境の持続可能性は事業継続の前提であり、環境負荷低減は重要課題です。

キリンググループは2013年に発表した「長期環境ビジョン」のもと、2050年の資源循環100%社会の実現をめざす取り組みを、多くのステークホルダーと協力して進めています。「地球温暖化防止」も重点テーマの一つで、2050年までに事業のバリューチェーン全体のCO₂排出量を1990年比で半減するという目標を掲げています。既に「日本の製造・物流・オフィスからのCO₂排出量」では55%の削減を達成しています。この大幅な削減に貢献したのが、「ミウラの小型貫流蒸気ボイラ」でした。

キリンビール滋賀工場では、2007年から3年間で大規模リニューアルに合わせて、24台の小型貫流蒸気ボイラをMCKBエネルギーサービス(株)※と導入しました。採用の決め手は、少ない燃料でより多くの蒸気を作れるボイラの省エネ性能、そして運転効率を追求できるミウラ独自の「MI（多缶設置）システム」でした。ビール工場の場合、使用する燃料の大半は蒸気を作るボイラに用いられています。導入後、燃料使用量が大幅に削減され、CO₂排出量も大幅に削減できました。さらに、万一のトラブルを未然に防ぐ24時間体制のオンラインメンテナンスにも安心してしています。さらなる省エネルギーの実現に向けてこれからもよろしくお願い致します。

※MCKBエネルギーサービス(株)・・・
三菱商事パワー(株)のキリング
グループ向けのオンサイト事業
会社



キリンビール株式会社
滋賀工場 醸造エネルギー担当
久保田 崇仁 様

ミウラグループは、営業・販売力、メンテナンス力を高めるために実務に即した研修・教育を行い、お客様のニーズに対応できるよう、情報共有やメンテナンス技術の向上に努めています。

営業・販売力

お客様への提案力を高めるため、1年に1回、営業研修を三浦研修所(本社・松山)で行っています。研修プログラムでは、お客様へのサービス力や提案力向上を実現するための目標を立案。掲げた目標は、次年度の研修時に成果報告として成功事例や反省点を共有し、実績をフィードバックする実践的なミウラ独自の研修で営業・販売力を高めています。

さらに、専門知識力を向上するためのプログラムでは、お客様にご提案できる最新の省エネ手法や新商品のセールスポイントなどを学習。また、全てのミウラの製品について全員が同じ内容を受講し、トータルソリューション営業ができるセールスエンジニアを育成しています。研修の締めくくりとしてテストも実施。研修の有効性をしっかりと確認しています。

メンテナンス力

日本各地の約1000名のサービスエンジニアを対象に、技術およびサービスの向上を図るためのメンテナンス研修を各階層に合わせたプログラムで行っています。

近年では、新しい技術や、機器メンテナンスに関するもののほか、企業の社会的責任を果たすため、コンプライアンスや基本動作の強化教育も行っています。また、熱・水・電気等を環境に配慮しながら有効利用するためのモデルとして、ミウラの工場内でも技術を活かしたトータルソリューションを展開。お客様のお役に立つサービスエンジニアの育成に努めています。その他、外部の研修機関とも連携し、メンテナンスの付加価値を向上させ、ワンストップサービスから信頼構築につなげられるテクノサービス力、コミュニケーション力向上の教育を実施しています。



三浦研修所(三浦リトレセンター)



営業・販売力

お客様の良きパートナーになるため お客様の設備を「知る」ことを大切に

お客様のニーズに合った提案のために、まず株式会社明治様の全工場の生産品目とユーティリティ設備を徹底的に把握することから始めました。設備の共通点が多い工場であれば同様の省エネルギー化が実現できる、という点に着目したご提案です。さらに、ミウラの強みであるメンテナンス・設計者との連携を行い、お客様からの期待に迅速に応えられるよう心がけています。

明治様との関係づくりの中で、印象に残っていることがあります。明治様の工場では誰もが礼儀正しく対応してください。なかでも理由を尋ねた際のお言葉が印象的でした。「今、この瞬間は私がお客様かもしれません、普段は江頭さんが明治のお客様ですから」とおっしゃってくださいました。全社員に浸透している教育体制に非常に感銘を受けたと共に、私も「モノを売るのではなく、期待に応える」ということを考え、お客様の良きパートナーになりたいと強く実感しました。

東京MI営業4課
係長
江頭 直也



メンテナンス力

製品の安定稼動で安心をお届けし ミウラの総合力でトラブルを回避

株式会社 明治様では、ボイラおよびRO装置を愛用いただいております。私はメンテナンス担当として、安定したユーティリティの供給ができるよう日々努めています。おかげさまで、導入していただいて以降、安定した稼動で、お客様に必要な熱源や水を供給し続けることができることを嬉しく思っています。これも、ミウラを信頼してくださっているからこそだと実感しています。さらに、万が一の際は、本社技術部、営業担当者を含めたミウラの総合力で、トラブルも未然に防げるよう万全の体制を整えています。

昨今のエネルギー情勢から、工場の省エネルギー化はお客様にとって重要な課題です。メンテナンス担当として、現状を把握し、これらの解決のお手伝いは責務であると考えています。今後も、お客様にとってメリットとなるエネルギー削減のご提案、お客様のありたい姿を実現できるようお手伝いをしていきたいと思ひます。

名古屋TSメンテ
副主任
菅野 真吾



RO装置MRO

VOICE

おいさと健康が続く、次の100年に 明治の願いは未来をみつめています



株式会社 明治 関西工場

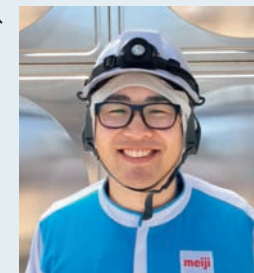
明治グループでは生産から物流まであらゆる段階で省資源・省エネルギー活動を積極的に推進しています。市乳工場である株式会社 明治 関西工場でも、さまざまな省エネルギー活動に取り組んでいます。

今回、ヨーグルトの他に製造している壺製品(牛乳、乳飲料)の製品容器洗浄工程の仕上げ水を生成する機器としてRO装置を導入しました。新規導入のため、エネルギー使用量は単純に増加していますが、ミウラ製RO装置MROは、加温するための蒸気配管敷設のイニシャルコストや導入後の蒸気使用のランニングコストに対して優位性があり、装置選定の重要性を実感しております。ミウラの生産工場を見学した際、パッキン類含め部品を自社生産されていました。既製品に頼らず設備をゼロから設計することで、高性能でコンパクトな設備創りを実現しているのだと感じました。さらに、24時間常時監視し、予防保全を行うオンラインメンテナンスといったアフターサービスの充実も選択のポイントでした。既にこのサービスに契約し、RO膜の状態を遠隔監視している工場では、警報発生時に当社からの連絡よりも先に、迅速に対応いただいたことがあり、非常に有効と考えています。

明治では価値ある製品をお客様にお届けするために、品質重視で日々の製品作りに取り組んでいます。具体的な取り組みとして、明治グループ理念体系に基づき、独自の品質マネジメントシステム「明治 品質コミュニケーション」(愛称:Meiji Quality Comm)を構築し、品質への取り組みを日々強化しています。

昨年に100周年を迎え、2017年は次の100年に向け新たな一歩を進める年です。

今後もお客様へ安全・安心な製品をお届けするために、水に関わるさらなる品質向上を目標に取り組んでいきます。



株式会社 明治
関西工場 装置技術一課
主任 木梨 光夫 様

環境マネジメント

〈担当取締役コメント〉

2016年11月にモロッコのマラケシュで開催された国連気候変動枠組条約第22回締約国会議（COP22）において、COP21で採択されたパリ協定の具体的なスケジュールが決定されました。

国内においては省エネ法による事業者クラス分け評価が始まり、ミウラグループは環境のトップランナーとして最高評価のSランクを維持しながら、お客様へのさらなる省エネルギー提案活動に努めます。

また、2017年9月に発効が決定されているバラスト水管理条約をうけて、新たな技術を搭載した製品により、世界の海洋環境保護にも貢献していきます。

これからも、ミウラグループは、世界情勢の変化を見据えた環境経営を強化して、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進します。

以下の「環境報告」では、ミウラグループの省エネルギーと環境保全に関する取り組みについてご紹介します。



EMS*トップマネジメント
取締役常務執行役員

福島 弘司

※Environmental Management System（環境マネジメントシステム）の略称です。

ミウラグループ環境方針

ミウラグループ（以下、当社という）は、熱・水・環境の分野で、世界を舞台に、資源の有効利用と環境に優しい社会の創造のために、環境経営をより充実させ、持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指します。

■行動指針

- 1

環境側面から環境に与える影響をとらえ、環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善を図ります。
- 2

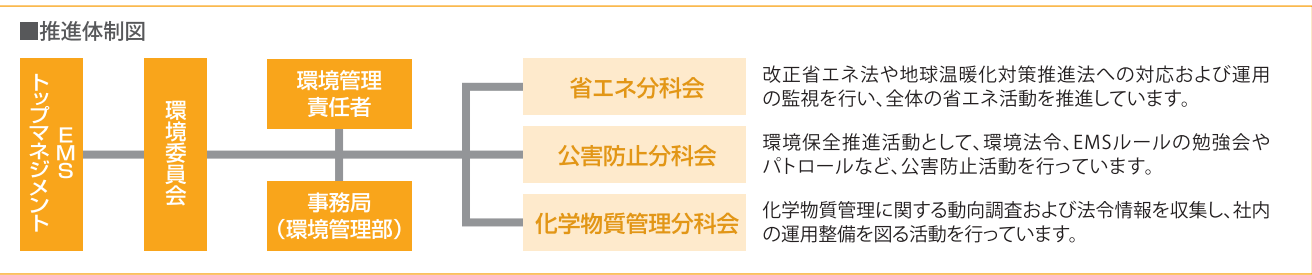
環境目的、目標は、社員一人ひとりが身近に参加でき、その総和が環境負荷低減につながる活動を優先的に取り上げます。
- 3

環境側面に適用される環境関連法規および当社が同意するその他の要求事項を遵守し、汚染の予防に努め、自然との共生を図ります。
- 4

事業活動から環境に与える影響のうち、次の項目を重点的に取り組みます。
①省エネ・省資源・環境の改善に寄与する商品開発に努めます。
②エネルギーの有効利用を図ります。
③資源のリユースおよびリサイクルを通じて廃棄物の抑制に努めます。
④化学物質管理の向上に努めます。

推進体制

環境マネジメントに関する課題の審議を行うため、環境委員会を定期的に開催しています。

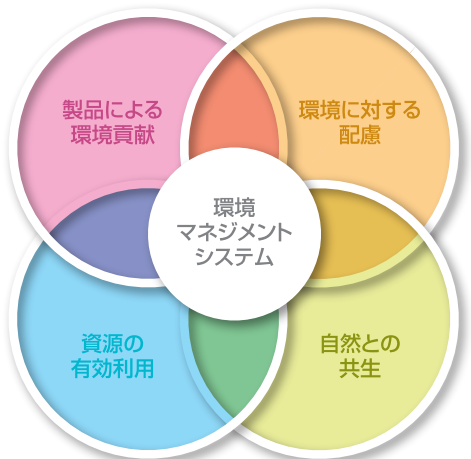


環境中期計画

環境中期計画は、環境方針に沿って4つの環境目的を掲げています。年度ごとに自己評価を行い、継続的に改善しています。

■環境マネジメントシステムと4つの環境目的

製品による環境貢献	環境に配慮した製品を開発する。
環境に対する配慮	汚染の予防と化学物質管理の推進を図る。
自然との共生	環境保全活動を通じ自然との共生を図る。
資源の有効利用	エネルギーの有効利用と排出物のリユース、リサイクルの促進、資源の有効利用を図る。



■2012（平成24）年度～2017（平成29）年度の計画

環境目的	取組項目／実施内容	自己評価 2016年度	2016年度実績 参照ページ
製品による 環境貢献	廃熱、温水・ドレン水の活用に貢献できる製品を開発する。	○	P9～P10 特集3： 『製品による 環境貢献』
	電力・燃料・水の使用の削減に貢献できる製品を開発する。	○	
	無薬注による水処理の促進に貢献できる製品を開発する。	○	
	河川・海洋汚染の抑制に貢献できる製品を開発する。	○	
環境に 対する 配慮	ばい煙発生設備の定期的測定を実施し、大気汚染防止に努める。	○	P17 『汚染防止の 取り組み』
	定期的な水質調査を実施し、水質汚濁防止に努める。	○	
	定期的な騒音測定を実施し、騒音の発生防止に努める。	○	
	環境パトロールや製造機械の環境審査を実施し、緊急対応手順による監視を行う。	○	
自然との 共生	グリーン調達ガイドラインの草案を整備する。	—	P17 『自然との共生』 P27
	化学物質情報共有の仕組みづくりをする。	—	
	毒物及び劇物の運用監視のための内部監査を実施する。	○	
	工場周辺の清掃活動を実施する。（年4回）	○	
資源の有効 利用	工場周辺の河川清掃活動を実施する。（年2回）	○	P18 『省エネルギーの 取り組み』 P27
	工場内、屋上の緑地を維持管理する。	○	
	ISO14001認証サイト内のエネルギー使用量（原油換算）の削減のための省エネ施策を立案する。（毎年度向こう5ヵ年分）	△	
	エネルギー使用量（原油換算）の国内売上原単位*1前年度比で年1%削減する。	○	
	工場再編、部門移動に応じた計測メーターの設置と計測を行う。	○	
	エネルギー管理要領及び管理手順書に基づく運用管理を実施し、状況に合わせて見直しを行う。	○	
工場内の排出物の リユースおよびリサイクル の促進を図る	工場内の排出物の総排出量*2を国内売上原単位*1前年度比で年1%削減する。	×	P18 『省資源の 取り組み』 P27
	リユース率、リサイクル率の向上を図る。	○	
	資源の有効利用を図る	○	
資源の有効 利用	紙使用量の削減（使用量＝購入量として、2009年度国内売上原単位*1比を維持する。）	○	

【自己評価の基準】○…計画通り実施できた。△…一部できていないところがある。×…計画通り実施できなかった。—…現状維持管理

※1 国内売上原単位：電力や燃料、その他のそれぞれの使用量（購入量）を国内売上高で除した値です。
※2 総排出量：ISO14001認証サイトにおける事業活動で生じた廃棄物や有価物、並びにリユース物の合計値です。

環境教育と訓練

〈基本的な考え方〉

EMSの基本的な考え方である、「身近でできることから始める大切さと、一人ひとりの総和が環境負荷の低減につながる活動」について、従業員だけでなく取引先にも協力をいただき、環境意識の啓発を進めています。

環境教育

従業員にEMS一般教育の受講を義務づけています。さらに、内部環境監査員養成研修を実施し、確実にEMSが運用できるよう内部監査員を育成しています。また、毒物および劇物の取り扱いや排水処理などの専門教育では、環境汚染の予防や専門知識と社内ルールについての教育を実施。修了試験に合格した者のみが関連業務に携わることができます。

緊急時の対応訓練

東南海・南海地震規模の地震を想定した防災訓練を定期的に行っています。ミウラグループでは、ブラインド方式を取り入れ、一時的に災害の現実感を高める中での訓練になるよう意識づけをしています。従業員は、突然の放送にも落ち着いて行動し、自衛消防隊の指示を受け速やかに避難し安否確認までも速やかに行うことができました。このような、シナリオのない訓練を重ねることで緊急時に備えています。



エコビールのつばやき



お風呂の残り湯は洗濯へ、暖房は薪ストーブと重ね着、日除けは窓外に簾、車の運転はオートクルーズ、日常の買い物は徒歩、さて次は何をしようかな？

アークア事業管理部
華谷勝

エコビールのつばやき



家族で環境にやさしい生活を楽しんでいます。照明はLED、野菜や肉の切れ端からフイヨンを作り、ジップロックバッグは再使用。小さな積み重ねで、環境に貢献しているのは嬉しいですね。

ミウラアメリカ
キャリア・ムラカミ

汚染防止の取り組み

〈基本的な考え方〉
環境側面に適用される環境関連法規および当社が同意するその他の要求事項を遵守し、汚染の予防に努めます。特に化学物質の管理体制を確立し、自然災害などの緊急事態でも周辺の環境を汚染しないように努めています。

適正な廃棄物処理への取り組み

本社地区、北条地区から排出される廃棄物が適正に処分されているかについて、定期的な視察(再評価)を実施しています。許可証、マニフェスト報告、廃棄物の保管・管理などの法令が遵守されているか、安全教育や車両・設備の整備状況、環境活動への取り組みなど、17項目の評価基準を満たした場合、契約を更新しています。業者と直接現場を確認し、廃棄物や環境に関する情報交換を行うことで環境負荷低減へ活かしています。

2017年1月には最終処分事業場の見学に赴き、マテリアルリサイクル、溶融飛灰資源化処理等の最先端の情報収集をしました。

自然との共生

〈基本的な考え方〉
地球環境との調和を目指した環境活動として自然との共生に努めています。周辺地域の環境保全や、もっと広い視野で「従業員一人ひとりが身近に参加でき、その総和が環境負荷低減につながる活動」に取り組んでいます。

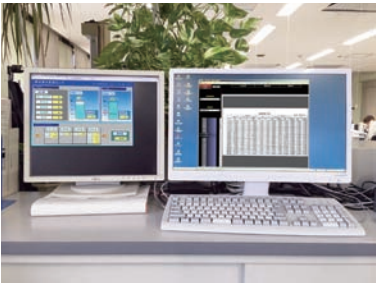
150本の桜の植樹

従業員をはじめ地域の方々の憩いの場として、北条工場に150本の桜を植樹しました。この公園内の庭園、植樹、遊歩道整備等は、ミウラグループ従業員が企画設計し、すべて手づくりで行っています。150本の桜の苗木が育つことにより、近い将来桜の名所となることを期待しています。今後もこのような環境保全、自然との共生を継続していきます。



独自の監視装置で排水を徹底管理

ミウラグループは、工場で使用した排水をきれいに処理し自然に還せるよう、徹底した排水処理と水質保全に取り組んでいます。本社地区では、工場からの排水に含まれるCOD(化学的酸素要求量)、窒素、リンの含有量をミウラ独自の遠隔監視装置ERで監視しています。工場排水を一時的に貯溜した敷地内の排水処理エアレーションラagoonで観測された数値は、担当者が遠隔地でも常に監視。そのため万一の水質汚染などのリスクを早期に発見することができる仕組みです。今後も、継続して排水処理への取り組みを強化していきます。



公園緑地を整備

ミウラグループ内で整備工事の際に発生した不要樹木や、工場新築等の際に伐採が必要となった多種の樹木の移植や整理を行い、遊歩道も備えた緑地公園として整備し、地域の緑化と環境負荷の低減にも役立てています。緑地公園は、休憩時間の従業員の憩いの場や、休日の家族そろっての利用のほか、周辺地域の方々も利用できるようになりました。



省エネルギーの取り組み

〈基本的な考え方〉
限りあるエネルギーを、いかに無駄なく有効に利用していくかということについて、「ミウラグループの従業員一人ひとりが自ら考え、できることから行動する」を基本とし、より良い省エネ活動を展開しています。

ミウラグループ省エネコンテスト実施

省エネ法の目標達成やモチベーションアップを目的とし、省エネルギーにつながるアイデアを社内募集する「省エネコンテスト」を、2016年8月実施しました。ミウラグループでは、初めての取り組みでしたが、212件もの応募があり、すべて実現すると、エネルギー削減見込み123KL(電力換算:約480,000kWh)、金額削減見込み約950万円、二酸化炭素削減量見込み236t/hに相当する改善となります。なかでも実現性の高い優れたアイデアにはトップマネジメント賞が授与されました。今後も従業員一人ひとりが、省エネルギーに関心を持ち続ける活動を続けていきます。



左より受賞の横田徹、坂口利樹、取締役常務執行役員丹下聖吾

省資源の取り組み

〈基本的な考え方〉
「混ぜればごみ、分ければ資源」を基本としています。従業員だけでなく、工場に入場される取引先にも協力をいただきながら、分別をしっかりと行い、見える化を進めていくことで、さらなる意識の向上と3R(リデュース・リユース・リサイクル)を展開しています。

木枠・パレットの有効利用

部品購入の際に使用されている梱包用の木枠やパレットは、部品などの発送用にそのままの姿で再利用しています。また、解体して発送用部品の下台をグループ内で製作しています。

2016年度は、一部のモータ、ポンプの下台について、廃木材を活用して新規に製作することで木材の有効利用を図りました。



トップマネジメント賞受賞者のコメント

電気リフトの充電タイミングの変更による省エネルギー
三浦マシシ：横田 徹

電気は見えないので電力計測器で“数値の見える化”を行いました。充電の回数はバッテリーの劣化にも影響があることを知り、バッテリー残量と充電回数を工夫することで省エネルギーになることが判りました。今後も日々業務の中で省エネルギーや改善を進めていきたいと思っています。



電気リフトのバッテリー残量を電力計測器で見える化

油冷却機器の設定温度変更による省エネルギー
生産技術部：坂口 利樹

今回のアイデアは入社当時から担当している設備の一部であり、思い入れも強い設備関連での受賞となったことを嬉しく思います。これを機に他の設備でも油冷却温度の設定値を見直せるものがないか、確認を進め、新たな改善を進めていければと考えています。

エコビールのつばやき



部屋の温度が25℃を超えた場合だけエアコンを使つて、それ以下であれば、扇風機を使います。常に電気の節約ができる方を選ぶようにしています。さらに会社にいる時は昼休み時間には電気を消します。

ミウラ タイ
ビモン・ボン・バサラック

お客様への責任と行動

〈基本的な考え方〉
我々は、「ミウラグループ企業行動規範」に則って行動し、お客様に役立つ技術を磨き、製品やサービスにおけるすべての「品質」を高めるべく、チャレンジし続けます。

品質マネジメント宣言

- 基本理念**
わが社に対するお客様の信頼は、製品やサービスの品質の上に成り立っている。ここにお客様最優先・安全最優先を宣言し、全社員が危機感を持ち、テクノサービス力を強化しそれぞれの部門でその役割を積極的に果たす。
- 品質方針**
コーポレートステートメント「熱・水・環境のベストパートナー」を実現するにあたり、次の行動をすべての社員がそれぞれに全うしなければならない。
- 品質行動指針**
1. 法令・規制要求事項を遵守し、安全性を第一に考えたものづくりを行う。
 2. 社会的に有用で高品質の製品やサービスを創出し、お客様の満足を得る。
 3. 最高のテクノサービスを追求し、お客様から信頼される企業を目指す。
 4. 環境への配慮を重視した製品・サービスを開発し、提供し社会に貢献する。
 5. 全体最適の視点・グローバルな視点で考え、継続的に品質の向上を図る。

ミウラグループの第三者認証や製品認証などの取得状況は、ウェブサイトをご覧ください。
<http://www.miuraz.co.jp/>

ミウラのものづくり品質

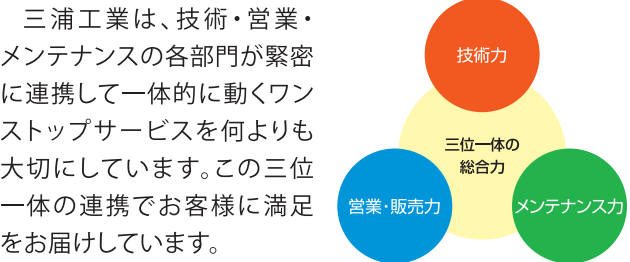
2016年5月（一般社団法人）日本ボイラ協会が主催する第45回全日本ボイラー溶接士コンクールに三浦マシンの藤岡高志さんが出場。被覆アーク溶接 厚板部門で、大会最高位である厚生労働大臣賞を受賞しました。同部門の優勝は、ミウラグループはもとより愛媛県としても初の快挙となりました。

ミウラグループでは、ものづくりの基幹技術に溶接を掲げ、長年にわたり溶接技量向上の取り組みを行っています。なかでも、技術の向上を目的とした『ミウラグループ溶接コンクール』は、2001年より開催しており、2016年度は国内海外のミウラグループと協力会社の溶接士の約120名が参加する大規模な大会となっています。



三浦マシン 藤岡高志

お客様の問題解決(三位一体の総合力)



■技術力
一般社団法人日本機械工業連合会が主催する優秀省エネルギー機器表彰において、「日本機械工業連合会会長賞」を受賞。『ガス焚き高圧貫流ボイラSQとダブルドレン回収ユニット（クローズドドレン回収装置HXとフラッシュ蒸気回収装置付きオープンドレンタンクMDT-H）のシステム』は、高い省エネルギー効果を評価されての受賞となりました。



優秀省エネルギー機器表彰

■営業・販売力
工場設備における省エネルギー・活エネルギーは、工場全体で見直す時代です。三浦工業は、これまでに35,000件を超える日誌・負荷分析、工場診断の実績があり、お客様の工場の各種設備の最適化をサポートしています。近年は、海外現地社員の研修にも注力し、「直接提案営業」の手法を海外市場にも拡大することで、お客様との絆・信頼を一層深めています。

■メンテナンス力
ミウラは、お客様にご愛顧いただいている“ミウラブランド商品”の「高効率・長寿命・無事故」を実現するために、アフターサービスではなくピフォアメンテナンスを提供しています。全国約100カ所のメンテナンス拠点に1,000名以上のサービスエンジニアを配置し、一部地域（北海道、離島）を除き2時間以内のサービス提供を目指しています。

サービスエンジニアの育成
製品ごとの社内資格制度に基づいた教育プログラムにより、サービスエンジニアの体系的なスキルアップを図っています。同時に社内資格の定期的な更新試験を実施して、技術力の維持・向上に注力しています。また、コンプライアンスを重視し、技術力だけでなく倫理教育も積極的に推進しています。

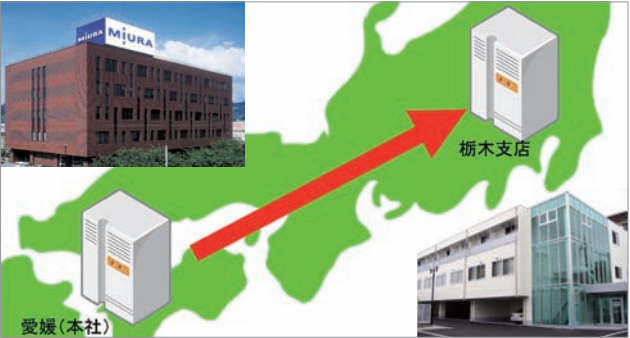
メンテナンスツールのIT化
ミウラのメンテはオンラインメンテナンスをはじめ、マニュアル、メンテナンスレポート、点検レポートの電子化などIT技術を有効活用しています。また、社用車に、ドライブレコーダを搭載し、KYT（危険予知訓練）では、実施の映像によるヒヤリ・ハット事例を使った具体的な安全指導を実施し、事故の低減を図っています。

お客様の役に立つBCP対策

〈BCP基本方針〉
ミウラグループの事業継続計画（BCP）では、従業員とその家族の安全の確保などに関する「基本版」、製品の生産および供給の継続などに関する「生産対策班」での活動を前提に、災害発生時に必要となる情報の事前準備を基軸として、被災地には拠点対策本部のバックアップ、無被害の地域には通常業務継続のためのリスク低減および復旧支援の対応策を準備・実施する「メンテ営業活動継続支援班」による実働に取り組んでいます。

ミウラでは、大規模災害が発生した深刻な状況においても、取引先との関係を継続し、メンテナンス、営業活動を途絶えさせない“お客様目線”のBCP運用を目指しています。

■ICTを活用したお客様目線のBCP対策
ミウラでは、お客様がビジネスを継続するためには、災害時においても安全・安心のサービスを提供することが使命であると考え、東日本大震災を教訓に、2014年から独自に開発したGIS（地理情報システム）による災害支援ツールを運用してきました。このたび、その有効性は熊本地震後の活動で発揮されました。



緊急時の組織体制（第2 ZISオンラインセンター）

被災により愛媛の本社機能が不全に陥った場合に備え、栃木支店にオンラインメンテナンスのバックアップシステムを設置しています。



Miura BCPシステム

自社独自のGIS（地理情報システム）を活用した災害支援ツールを開発し、視覚的な被害状況の把握や、復旧支援の進捗確認など、さまざまな場面で活用できるシステムを運用しています。

■熊本地震での対応

2016年4月、熊本地震の発生と同時に愛媛本社のZISオンラインセンターでは、発災地域の設備異常を「オンラインメンテナンスシステム」によって受信、直ちに対策本部が設置され、社員の安否確認、建物被害、インフラ状況の確認に着手しました。

一方、被災地では、お客様を訪問した現地社員がタブレット端末「Miura BCPシステム」を使って、実際に確認した被害状況、修理対応の要否、復旧・営業再開の見込みなど、リアルタイムで現場の情報を配信、愛媛本社の対策本部は常に最新の情報を共有できたことで、周辺地域から適切な応援要員を派遣、必要物資の手配などを、迅速かつ正確に指揮することができました。



2016年4月 熊本地震での被災地対応画面

■さらなる改善と今後の取り組み
熊本地震での対応は、「Miura BCPシステム」の初めての実践となりましたが、そこから得た経験は、システムの利便性の改善とともに、今後の課題を見つけ出すきっかけにもなりました。

- ・被災／復旧情報の抽出条件の追加
 - ・一覧画面のレイアウト変更による操作性の改善
 - ・複数拠点からの電話ローラーに対応できる機能の追加
 - ・留守電・担当者不在時の管理ができる区分の追加
- など

さらに今後は、将来の災害発生が想定されている特定地域について、重点的な対策と対応を可能とするため、災害事案毎に地域を登録できるようにしていく予定です。

また、システムの構築だけでなく、継続的な訓練や情報配信の重要性を再認識しており、2017年度は、社内研修においても、BCP システムの利用方法についての詳細説明を予定、さらに栃木支店のバックアップサーバが被害にあった場合の対応策も実施していく予定です。

エコビールのつばやき



昨年夏、自宅にゴーヤグリーンカーテンを作りました。日除けはもちろん食することで夏バテ対策にもなります。来年は朝顔にチャレンジしてみたいです。

埼玉営業所 菅 紘章

エコビールのつばやき



寒い冬場は、特に首の後ろ・足首・おなかを温めるように、重ね着をします。体がポカポカしてくるので、過剰に暖房を焚くこともなくなり、エコロジー。

仙台営業所 小野 宏美

株主・投資家への責任と行動

〈基本的な考え方〉
企業価値の最大化を目指して効率性の高い経営に努めるとともに、株主や投資家の皆さまが必要とされる企業情報を適正かつ適時に開示し、対話を通じて経営の透明性を高め、開かれた企業を目指します。

株主還元の基本方針

ミウラグループは、利益配分を重要な経営課題として認識し、経営基盤の強化を図りながら、連結配当性向30%を目処に、安定的な配当の継続を基本としています。
中期経営計画達成に向け、人財に先行投資し、グローバル化や新規事業の開発研究に力を注ぐとともに、残業の削減を推進し、株主の皆さまへの長期安定的な収益の確保と積極的な利益還元に努めています。
また、株主優待においては、魅力ある地元愛媛の県産品（砥部焼&今治タオル）をご優待品の1つとし、ご好評をいただいています。



※平成28年度の株主優待の実績例です。

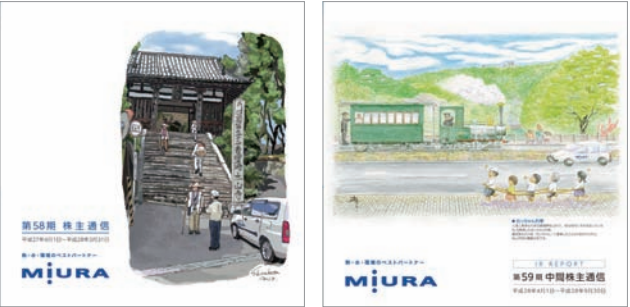
株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

ミウラグループは、国内では機関投資家・証券アナリスト向けの決算説明会を開催し、海外では北米圏・アジア圏において、社長が株主・投資家の皆さまとの対話の場へ登壇しています。
株主総会の後には、株主さまの貴重なお時間をお借りし、対話の場として、社長より成長戦略の説明をしています。国内外の機関投資家との電話取材、本社での個別ミーティングについても積極的に対応しています。
このような取り組みを通じて頂戴したご意見を今後の課題と認識し、事業運営やIR活動の参考としています。
また、2016年度よりインターネットによる議決権行使の対応を始め、招集通知関係書類の電子提供についても積極的に取り組んでいます。

適時・適切な情報開示

ミウラグループは、個人の株主・投資家の皆さまへ、中間決算時と本決算時に「株主通信」をお送りし、株主通信（本決算のみ）、決算説明会資料・決算関係書類については英語版を作成しています。さらに、自社ウェブサイトで機関投資家・アナリスト向け決算説明会で用いた資料を迅速に公開、トピックスをニュースリリースでお知らせしたりするなど、最新情報をタイムリーにお届けするよう努めています。

愛媛の風景を描いた株主通信（表紙）



お遍路さんと第52番霊場太山寺

市内を走る坊っちゃん列車



英訳版株主通信「Annual Select 2016」

IRカレンダー

ミウラグループの2016年度の実績をご紹介します。

2016年	2月 1日	第58期第3四半期決算発表
	5月13日	第58期決算発表
	5月25、26日	第58期機関投資家向け決算説明会(東京)
	6月29日	第58回定時株主総会開催
	7月29日	野村證券 松山支店 主催 個人投資家向け会社説明会
	8月 1日	第59期第1四半期決算発表
	9月10日	さわかみ投信 主催「さわかみファンド」 運用報告会2016(横浜)
	11月 7日	第59期第2四半期決算発表
	11月21日	第59期第2四半期 機関投資家向け決算説明会(東京)
2017年	2月 6日	第59期第3四半期決算発表

取引先への責任と行動

〈基本的な考え方〉
購買部門は企業の社会的責任を果たすために、取引先との相互理解・法令、社会規範遵守を積極的に推進しています。さらに取引先から供給された優れた資材をより良い製品づくりに活かし、お客様へ提供していきます。

調達の基本方針

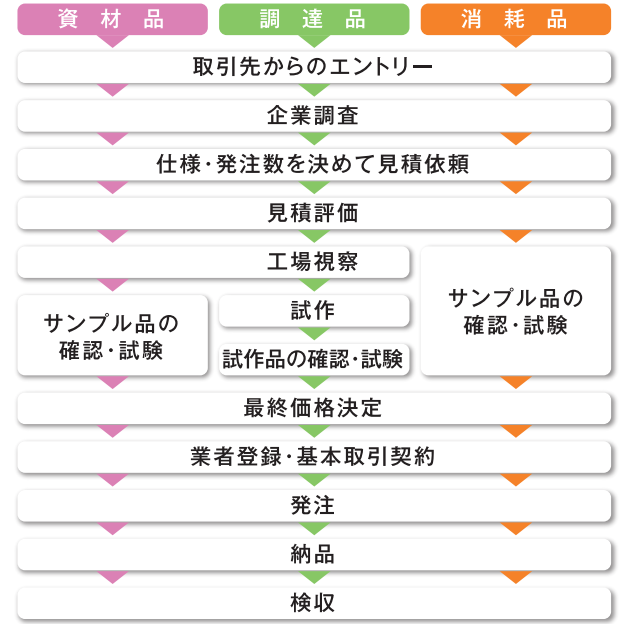
オープン
日本国内だけでなく、広く海外の企業に対しても門戸を開き、優れた製品を有し、良好なサービスを得られる企業との取引を求めています。また常に新しい企業との購買取引を心掛けています。
公正
取引先の選定は、製品の品質・性能・価格・納期の確実性、アフターサービス体制、および経営状態などを総合的に判断し公正に選定します。
相互信頼
公正な取引を通じて、取引先の皆様との相互理解と信頼を深め、相互利益のために信頼関係を築き上げていくよう努めています。
法令の遵守
弊社との購買取引にあたって、弊社と取引先の皆様の双方が、国際社会の関連法規ならびにその精神を遵守すべきであると考えます。
社会への貢献
弊社と取引先の皆様が購買取引を通じて、ともに社会に貢献する良きパートナーとなるべきであると考えます。

「調達の基本方針」の詳細はウェブサイトをご覧ください。
<http://www.miuraz.co.jp/>

購買手続き

新規取引を希望の取引先に対しても、受け入れ態勢を整え、国内外や地域の差別なく公正に評価し選定を行います。

購買手続きの流れ



四位一体改革の推進

ミウラグループは世界連携で四位一体（設計・グループ製造会社・資材調達・協力会社）の生産改革を展開し、高品質・低コスト・短納期を実現する生産体制の構築に取り組んでいます。

■四位一体改革の概念図



■トップサプライヤーとの情報共有化

理念を共有するトップサプライヤー（グループ製造会社と主要協力会社）とは年度ごとに品質に関する目標設定を行い、Q：品質、C：コスト、D：納期、F：変化対応について定期的な会合を開催し、情報の共有化を図っています。



トップサプライヤー経営者会議の様子

■ミウラWeb購買システムの運用開始

ミウラWeb購買システム（電子データ交換による商取引）の本格運用を2016年度に開始しました。導入においては、多くの取引先で理解をいただき、スムーズに導入することができました。従来の注文書（紙）での取引から電子データ交換の取引に変更することで、取引先とより速く正確な受発注情報のやり取りが可能となり、効率的な取引を実現しました。
また、新たに生産関連の予定情報を提供しており、取引先の生産調整情報として活用されています。さらに、紙情報に加えて電子データも提供、ダウンロード可能としており、取引先での、業務効率改善の一翼を担っていると考えます。
今後はシステムのさらなる有効活用を推進し、生産体制全体の有益な改善に取り組んでいきます。

エコビールのつばやき



通販で複数個の商品を購入する時、私は必ず「梱包はまとめて1箱」を選択します。ムダな梱包を減らせごみ削減です。

三浦マシ 吉村恵子

エコビールのつばやき



シャワーの水が温くなるまでの水をバケツに溜めて、翌朝に夏ならメダカの容器への补水、冬なら加湿用に鍋をストーブの上にかけてさらに洗顔にも使ってます。

アーク技術部 福岡好之

地域社会への責任と行動

〈基本的な考え方〉
ミウラグループでは芸術や文化・学校行事の支援、環境の保全・地域活動への協力、その他のボランティア活動などの分野において、地域との共存・共栄を図りながら、地域に役立つ社会貢献に取り組んでいます。

学校行事・地域行事への支援

■学校行事への支援
松山市とPTA連合会主催の「キッズジョブまつやま」へ参加し、ミウラのボイラ配管作業や水分析を子どもたちに体験してもらえる場を提供しています。ほかに、近隣の小中学生や高校生の工場見学なども積極的に支援しています。



■愛媛県「元気な集落づくり応援団」への協力
愛媛県の事業である、過疎地域への活動へ積極的に参加しています。2016年度は県内25ヵ所へ延べ94名が参加し、草刈りや清掃、地域の伝統行事の応援活動を実施しました。



国内・海外におけるCSR活動
■国内
省エネルギーに貢献できる新事務所
2017年4月に新設された都城営業所は、事務所を開設するにあたり、2016年から物件を探していたところ、太陽光発電システムが設置された建物を紹介されました。窓ガラスは断熱効果があるペアガラスで、照明もLED仕様となっており、諸条件も考慮し賃貸契約を決定しました。
太陽光による発電は、月平均650kWhで、余った電気は売電も行います。また、常時モニタで電気の消費量が見えるので、従業員の節電意識向上にもつながります。
省エネルギーにも貢献できる、仕事をしやすい環境のもと、新しい都城営業所がお客様に役立つ良い拠点となることを目指して活動していきます。



ミウラート・ヴィレージ(三浦美術館)
ミウラート・ヴィレージでは地域に根づいた美術館を目指し、2016年度は「三岸節子展～私の美の巡礼」など、6つの展覧会を企画、開催しました。
毎年4月に開催しているお花見会は、2日間で約2,000名のお客様にご来館いただいているイベントへと成長しました。このようなイベントを含め、今後も地域の方々に喜ばれる展覧会を開催していきます。



愛媛大学農学部への寄附講座
愛媛大学環境産業研究施設「三浦記念館」に寄附講座を開設し、環境に関わる分析・対策技術の研究開発と教育を通して、地球環境の保全と人材育成に貢献することを目指しています。
具体的には食品や水、土壌中の化学物質やウイルスの新たな分析技術、室内環境のモニタリング技術、バイオマス資源活用技術などの研究開発に産官学連携で取り組んでいます。



愛媛大学環境産業研究施設「三浦記念館」

■海外(台湾)
節電・環境美化活動
三浦鍋炉(股)有限公司は、新工場建築後2年が経過していますが、節電活動として通路照明の人感センサの自動点灯時間を夏と冬で変更できるようにしています。
また、地下食堂は半分のスペースしか使用していませんので、電灯スイッチに表示をして節電活動を進めています。
その他、工場裏の緑地や工場周辺の美化活動を実施しており、半年に1回草刈りを実施して定期清掃を推進しています。



従業員への責任と行動

〈基本的な考え方〉
ミウラグループは「働きがいのある、働きやすい職場づくり」をモットーに、従業員の人格・個性を尊重し、安全な職場環境と良質な労働条件を提供するとともに、人材の育成と活用を推進しています。

健康促進
従業員の心と体の健康保持・増進のために、三浦グループ健康保険組合との共同事業として、引き続き「コラボヘルスプロジェクト」に取り組んでいます。2016年度は、部署対抗チーム制の「健康ウォークラリー」を実施し、174チーム(681名)が参加しました。「食」による生活習慣改善の一步として、本社食堂にて、数量限定健康メニュー「ここ・から・ランチ」の提供を始めました。
また、50名以上の事業所を対象にウェブサイトによるストレスチェックを実施し、セルフケアの推進継続と、集団分析による、より良い職場環境づくりに活用しています。

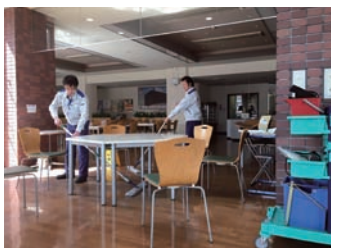
ワーク・ライフ・バランス
ミウラはエクセレントカンパニーを「残業がない」、「有給が取れる」、「風通しの良い社内風土(女性が働きやすい)」と定義づけ、これを目指した取り組みを進めています。残業削減対策として、2016年10月から技術、スタッフ部門の一部にフレックスタイム制度を導入しました。また、2016年12月から残業基準時間を見直したことなどにより、45時間以上の過重労働者が80%削減するなど、大きな成果を上げています。有給休暇もゴールデンウィーク休暇の実施などにより、2016年度の取得率は過去最大で、70%に達しました。今後も、さらなる環境整備を進めていきます。

ダイバーシティ
熱利用機器技術部の村野太一さんが2016年10月に実施された「第36回全国障害者技能競技大会(アビリンピック)」において、機械CAD部門の愛媛県代表として出場し全国優勝、金賞と同時に厚生労働大臣賞を受賞しました。この功績が認められ、12月には愛媛県より、県の名を高め、県民に明日を信じる「愛顔」を与えた個人・団体に送られる「愛顔のえひめ賞」を受賞しました。
ミウラでは、障がい者の雇用促進のみならず、その能力が十分に発揮できるよう、働きがいのある職場づくりに努めています。



熱利用機器技術部 村野太一

障がい者の雇用促進
■ミウラジョブパートナー株式会社を設立
障がい者の活躍の場を広げ、雇用の促進および安定を図るために、ミウラグループは2017年2月20日付けでミウラジョブパートナー株式会社(代表取締役社長 福島広司/従業員数10名 設立時)を設立し、同年5月に特例子会社の認定を受けました。事業内容は、ミウラグループの清掃や工場の軍手類の洗濯業務、印刷物の製本などの業務委託受注となります。
障がい者にとって働きがいがあり働きやすい職場を目指し、さらに個人の資質・個性を活かした職場を提供できるよう、さまざまな業務内容の拡充を進めています。



育児支援の充実
■「くるみん認定※」取得!
2016年8月に三浦工業が「くるみん認定」を受けました。ミウラグループでは、三浦マシンに続いての認定となります。同年4月に事業所内保育所を設立し、従業員の両立支援に役立っています。
※次世代認定マーク「くるみん」:「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定を受けた証。次世代育成支援対策推進法に基づき、一定の基準を満たした両立支援に取り組んでいる企業への認定です。
■共同運営の事業所内保育所
「きらきらキッズ」は、社会福祉法人福角会様、堀江病院様との共同運営の保育所です。単独では設置が難しい事業所内保育所を、地元の複数企業が共同運営する形で実現しました。開園以来、各事業所の従業員の子どもたちが毎日楽しく元気に過ごしています。



保育室の風景

エコビールのつばやき



普段の通勤では車を使用していますが、環境にも健康にも良いと「つばやき」へ、休日には、5〜10km位の距離であればなるべく歩いて移動するようにしています。

ブランド企画室 宮崎登志子

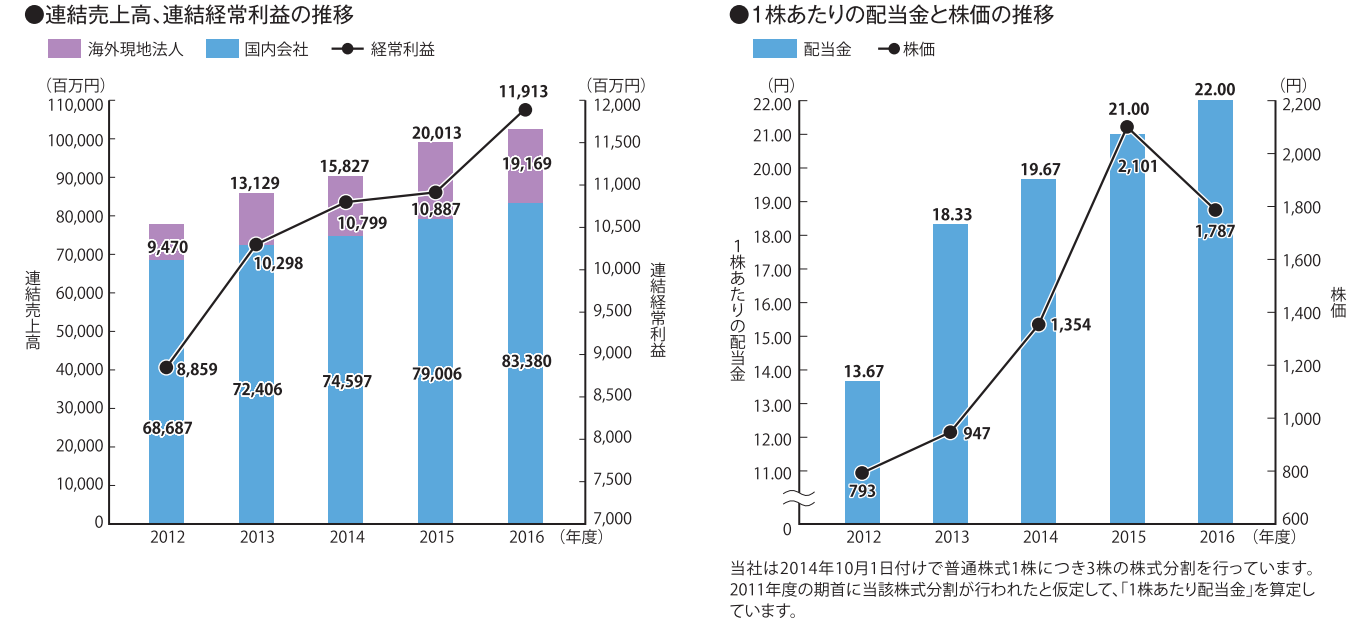
エコビールのつばやき



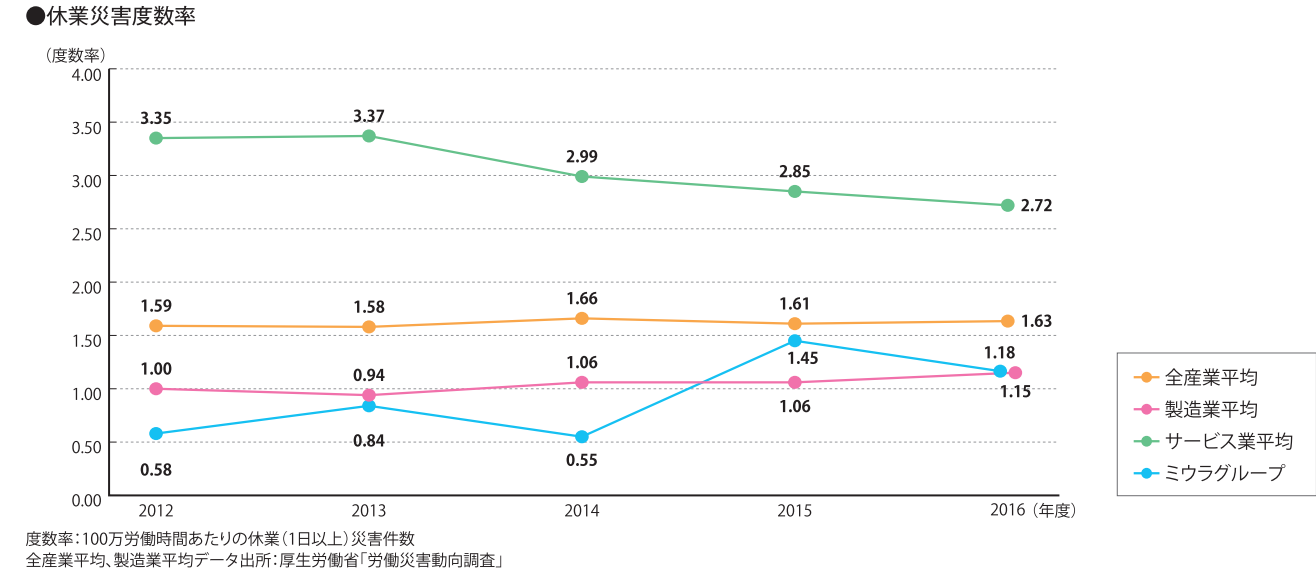
着なくなった服は某ファッションサイトのサービスを利用してリサイクルしています。次の人にも使ってもらえて断捨離もできて、買い取りサービスを何度も使っています!

人事部 黒光晴香

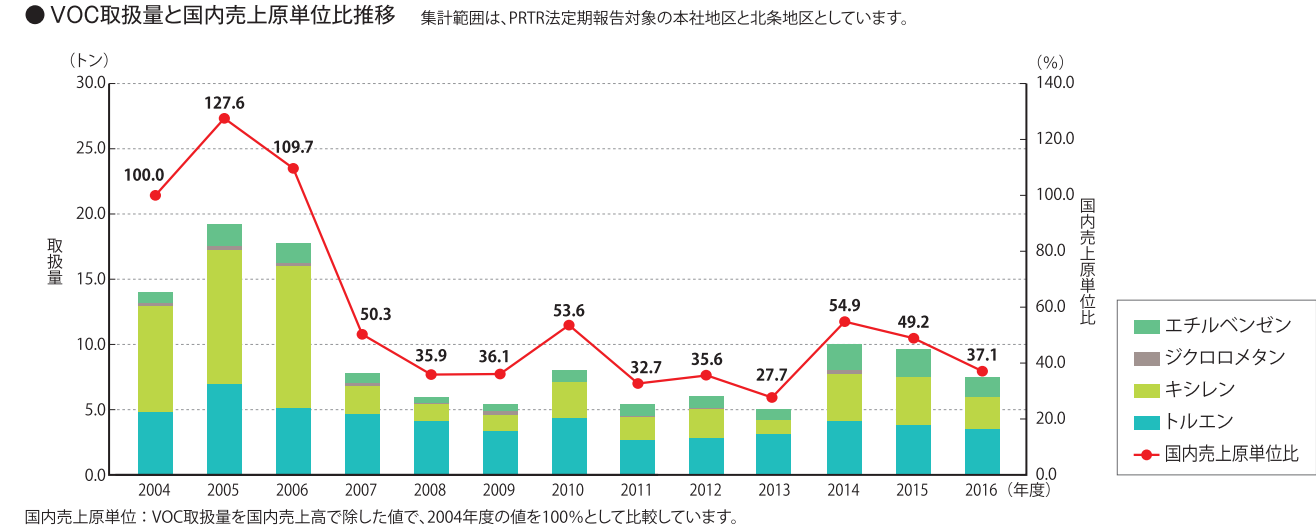
財務指標



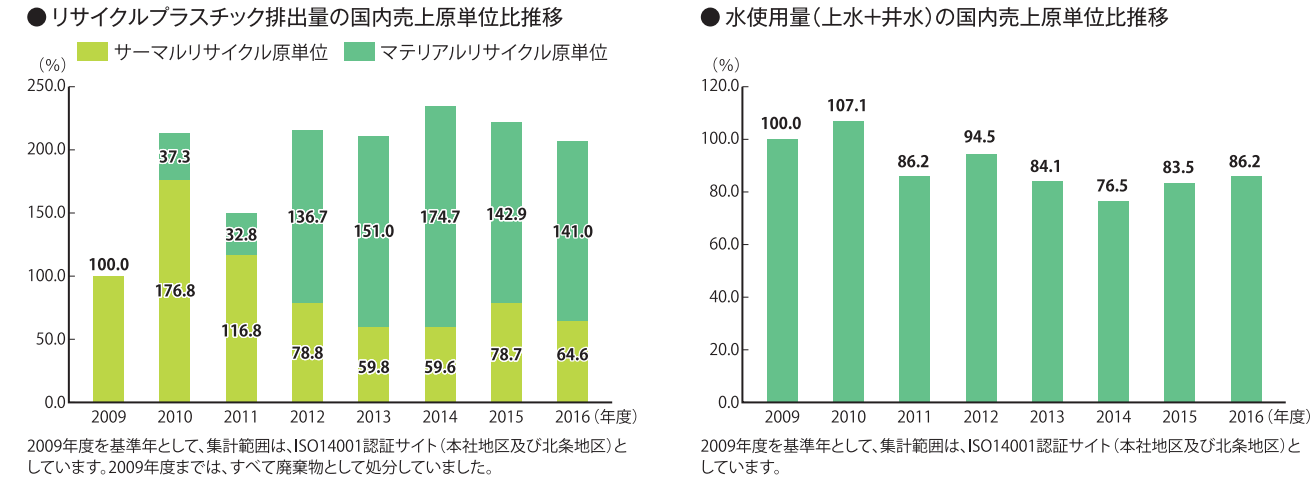
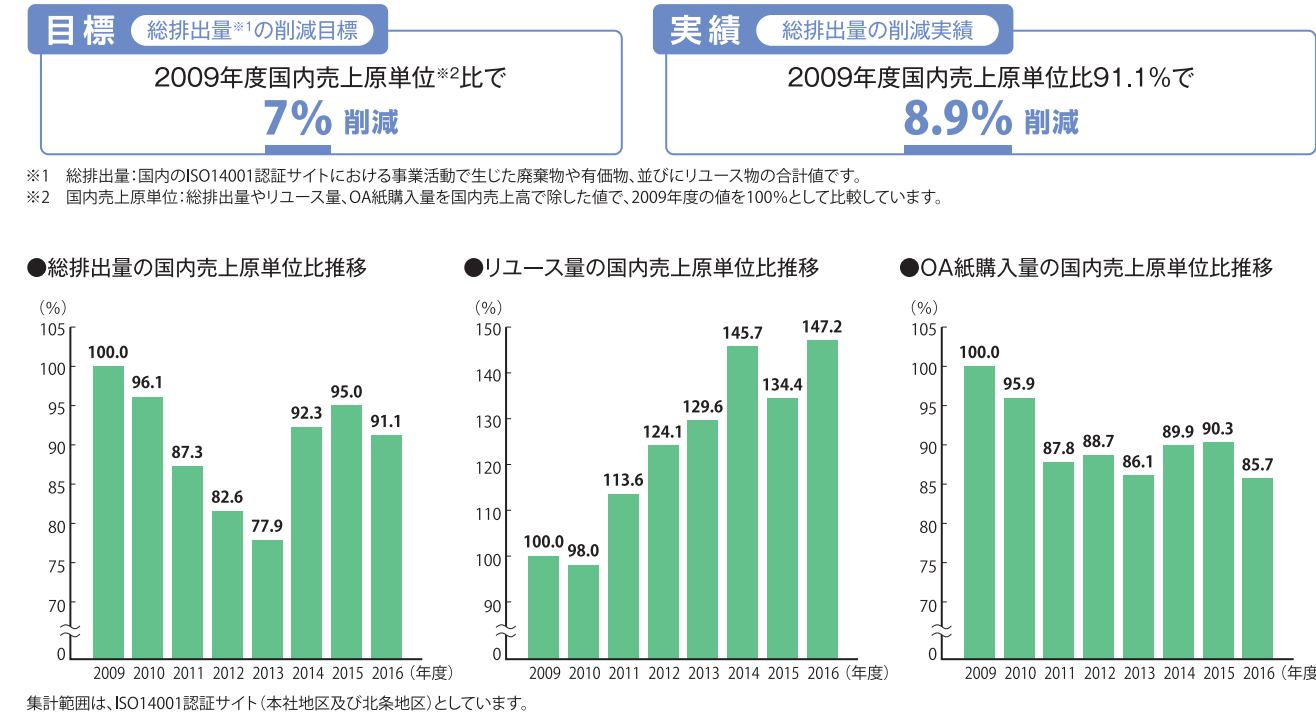
労働災害データ



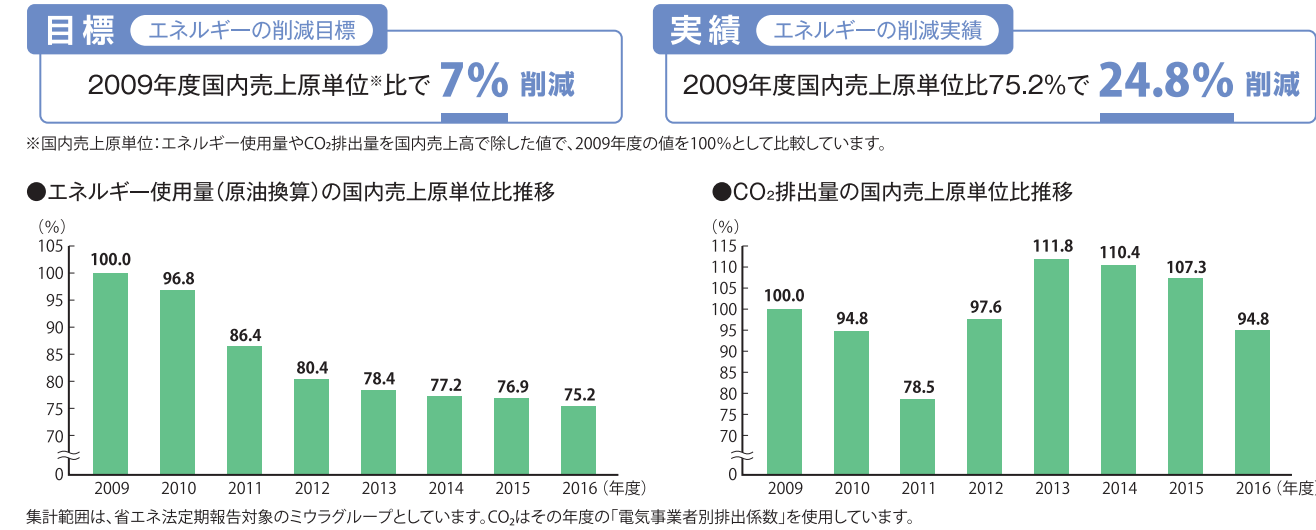
化学物質管理データ



総排出量の削減



エネルギーの有効利用



エコビールのつばやき



母親と食料品の買い物の時、必ずエコバックを持って行きます。レジ袋を使わないことでCO₂排出量削減に協力しています。

ミウラジョブパートナー岡田 浩嗣

エコビールのつばやき



買い物をするときは極力レジ袋を買わないようにしています。また、家ではエアコンを使用する際、タイマー機能を活用して省エネを心がけています。

人事部長 宮本 ちはる

〔第三者意見〕

「ミウラグループCSR報告書2017」を読んで

藤近 雅彦氏

■帝塚山大学 経営学部 非常勤講師 〈学 歴〉神戸大学大学院 経営学研究科 博士課程後期課程 修了
 ■滋賀県立大学 環境科学部 非常勤講師 博士(経営学)
 ■立命館大学 経済学部 非常勤講師 〈主な論文〉『CSRの基礎 一企業と社会の新しいあり方』(共著、中央経済社、2017)
 ■関西学院大学 経済学部 非常勤講師 『社会課題への適応からみた日本社会のCSRマネジメント』(2014)
 『日本企業の取り組みCSRの課題ーISO26000を通しての考察ー』(2011)
 『金融機関のCSRにおけるマテリアリティ分析』(2009)



ミウラグループでは宮内大介社長就任2年目となる今年度、「ベストパートナー戦略」をはじめとする戦略での価値創造に取り組んでいます。

そのひとつが、2017年9月のバラスト水管理条約発効を見据えたバラスト水処理市場への参入です。これは、ボイラに欠かせない水処理の技術を活用して海洋における生物多様性の保全に寄与する、きわめて社会的意義の大きい戦略です。化学薬品ではなく、フィルタや紫外線による処理を採用しているため環境負荷が小さいことも、戦略の実効性を高める要因となります。また気候変動や大気汚染の抑制につながるボイラのグローバル展開は、長年培ってきた強みを活かしたミウラならではの戦略といえるでしょう。

「ミウラグループCSR報告書2017」の「特集1〜3」では、これらの戦略を支える技術や製品、地域セグメントごとの具体的な取り組みが紹介されています。また「特集4」では戦略の推進力である人の育成について、技術、営業・販売、メンテナンスの3つの側面から取り上げられており、どれも地球環境やエネルギーに関連する課題の解決に向けた、強い意識が読み取れる内容となっています。

さて、今回のレポートでミウラグループの姿勢が特に感じられた活動に、工場内の工事などで発生した余剰樹木などを敷地内に集約して移植し、緑地公園として周辺の方々に開放しているというものがありません。公園整備には、多くの従業員が家族とともにボランティアとして参加されたとのこと。また梱包用の木枠やパレットを解体して、部品の出荷用下台

の材料として再利用する活動においては、工場の皆さんが製作道具などから工夫して、楽しみながら取り組んでいました。ほかにも障がい者を雇用しているグループ会社では、働く人の負担を軽減するために、色別のプレートを使った資材管理と発注の仕組みを活用していますが、これも現場の方々の創意によるものです。これらの取り組みに共通するのは、グループ従業員の皆さんが主役となり、汗と知恵を絞って活動を進めている点です。

CSRを考えるうえで、従業員は重要なステークホルダーであると同時に、すべての活動を推進する原動力にほかなりません。従業員の間に根付いてこそ、初めてCSRが企業風土として定着し得るのです。昨年度のCSR報告書では「従業員への意識づけが課題」と指摘させていただきましたが、各ページの「エコピブルのつぶやき」の内容を拝見しても、グループの皆さんの間に環境への意識が根付きつつあることがうかがえました。

同じく昨年、指摘した「サプライチェーンへのCSR展開」についても、主要サプライヤーとともに温室効果ガス排出を削減する活動として具体化し、すでに成果が出始めています。今後はこの方向性を維持しつつ、環境から社会へと活動のさらなる拡大を図ることが課題ではないでしょうか。

昨年に引き続き、創業者・三浦保氏の遺された言葉で本稿を結びたいと思います。それは「工夫は無限と確信せよ」です。従業員一人ひとりの限りない工夫により、ミウラグループのCSRがさらに充実することを心から期待しています。

ユース・リデュース・リサイクル)活動、化学物質管理について、グループ全社に目標と達成状況の「見える化」を行ない、一人ひとりの努力で成果を出していきたいと考えております。

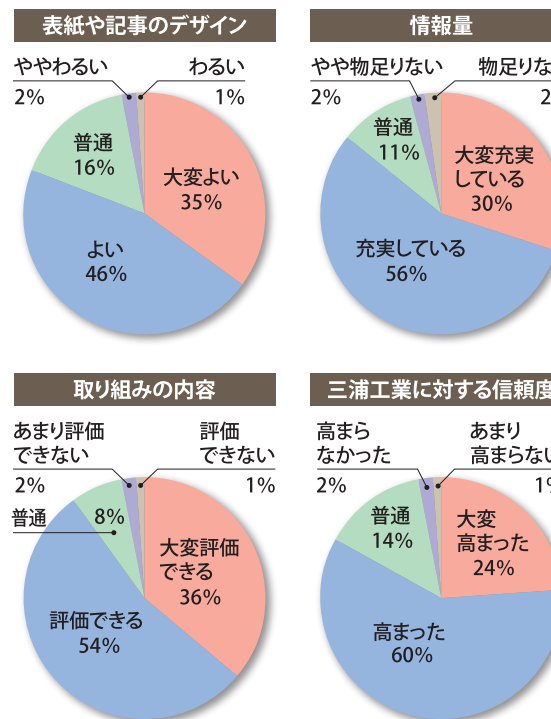
取締役常務執行役員
管理本部本部長

福島 広司

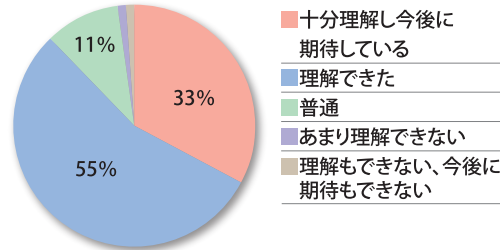


2016年度に発行した「ミウラグループCSR報告書2016」に対して、読者の皆様からご回答いただいたアンケートの集計結果は、下記の通りでした。(2017年3月末時点 回答数:132件)

Q1 この報告書について、どのように感じられましたか。



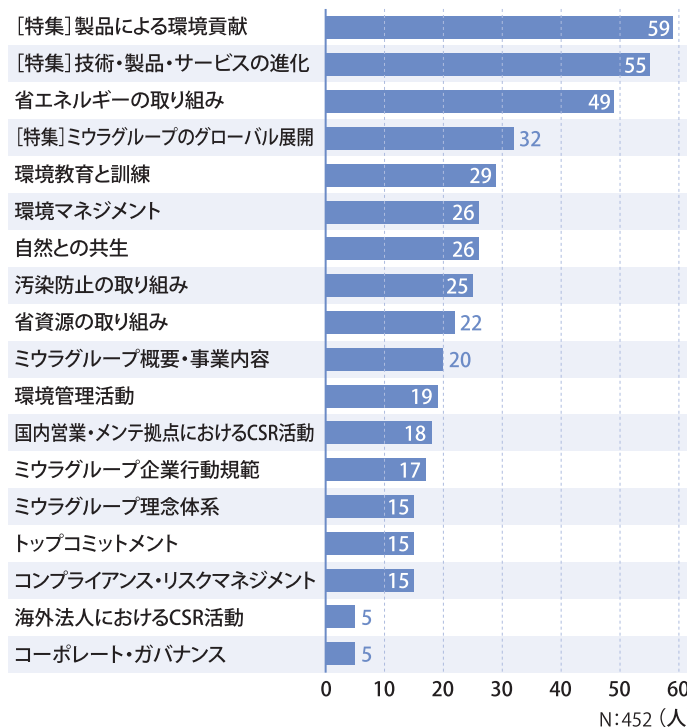
Q3 当社のCSRや環境への取り組み・方針について、理解いただけましたか。



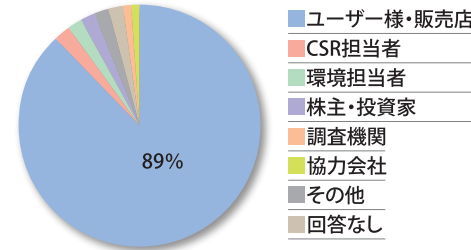
お寄せいただいたご意見・ご要望など(抜粋)

- 現有設備での省エネルギー推進アイテムなどありましたら、提案をお願いいたします。
- 初めて読みましたが、企業活動がよく分かる内容でした。今後も当社で取り組める地域活動や環境活動があったら参考にしたいと思います。
- 高品質、低コストへの追求とコンプライアンス、社会性報告などの代表例の発信や、他企業にも共感できる内容を今後ともどしどしお願いしたい。大変参考になる報告書だと思います。「つぶやき」も大変面白いです。
- 生態系への配慮、環境への取り組みなど、どれも素晴らしいことです。今後も期待です。
- 導入事例などを多く紹介してほしい。
- 地球の環境回復に向けて今後とも活躍を期待いたします。
- 省エネルギー・環境の取り組みと、時代にマッチして進化しているところがすごいと思いました。
- 今後もっと環境活動に取り組み、子どもたちに未来を残して欲しい。

Q2 この報告書の記事事項で、特に興味をもたれた記事を教えてください。(上位18項目)



Q4 本報告書をどのような立場で読まれましたか。



アンケートご協力のお願い

ミウラグループCSR報告書をお読みいただいた皆様のご意見を、弊社ウェブサイトにて受け付けています。

アンケートページの表示方法について

【方法1】
右のQRコードを読み込むとアンケートページが開きます。



【方法2】
ウェブ検索、URLからアンケートページにアクセスできます。

検索 ミウラCSR2017
<https://www.miuraz.co.jp/corporate/csrenquete.html>

お問合せ先：
三浦工業株式会社 ブランド企画室
Tel 089-979-7019
[E-mail] info_miuraz@miuraz.co.jp

皆様からのご意見を参考に、今後もCSRに対する取り組みを充実させ、分かりやすく正確にお伝えまいります。

【個人情報扱いについて】
ご提供いただきました個人情報につきましては、当社個人情報保護ポリシーに基づき「ミウラグループCSR報告書2017」以外の目的では使用いたしません。